

## 服部結奈 会社員

長崎国際大学

人間社会学部 社会福祉学科卒

大学で過ごした4年間の振り返ると、「ただひたすらに夢を追い続けた」日々であったと感じます。

私は、「社会福祉士になりたい」という夢を抱き、長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科に入学いたしました。大学には特別奨学生として入学し、4年間の授業料を全額免除していただいております。このため、私は特別奨学生として相応しい学生となれるよう、学修を通して自己研鑽に励むと同時に、履修している全ての科目においてS評価成績を修められるよう、努めてまいりました。このことを受け、在学中には大学より推薦をいただき、佐世保東口ロータリークラブ奨学会の奨学生として採用をいただきました。また、大学の卒業式においては総代(社会福祉学科最優秀成績者)としての表彰をいただきました。このような評価をいただけたのも、その根底に夢があったからであると思います。勿論、これらは私一人の力では成し得なかったことです。沢山の方々にお力添えをいただいたからこそ、4年間で全うできました。ただ、夢があったからこそ、私は貴法人に出逢うことができました。大学に進学する、というスタートラインに立つことができました。そういった意味でも、これまでの学生生活は全て、“夢”で繋がった時間であったと感じています。

大学では、学術的知識をはじめ、福祉専門職者として必要な実践的スキルの修得に向け、日々勉学に励みました。講義や演習といった座学のみならず、障害をお持ちの学生の学修支援員(=ピア・サポーター)としての活動等にも取り組んでまいりました。その中でも特に印象に残っているのは、ソーシャルワーク実習です。この実習こそが、4年間の大学生活において最も強いスパイスになったからです。実習を通して、介護老人保健施設や社会福祉協議会、その他連携機関に伺ったことで、私は現場のリアルを知りました。教科書からは見えない世界を目の当たりにしました。他人の命、人生に触れることの重み、それに伴う責任や重圧、一方でどこか求められる軽々しさ、感情の割り切りなど、とても言葉では表現し難いものを吸収しました。そこには、支援者・被支援者という人同士の繋がりがあからこそ生まれる温かさのようなものも確かにありました。抽象的で申し訳ないのですが、ただ、ひたすらに、強い刺激でした。

このような濃い学びを経て、4年次には第37回社会福祉士国家試験を受験、合格し、社会福祉士資格を取得しました。

しかし、卒業後は福祉職に就かず、一般企業に就職いたしました。

これは決して、国家試験に合格したから夢が叶ったと考えた訳ではありません。

大学での学びを通して、抱き続けてきた夢の本質を見定めることができたからです。私にとって、「社会福祉士になる」というのは、あくまでも夢を実現するための手段に過ぎません。私の夢は、一人でも多くの人を「幸せにすること」です。これを最大限に実現できるのは、“社会福祉士である私”ではないという決断に至りました。正直、最後まで悩みました。ここまできて、社会福祉士として働かないという選択をすることは、これ

までの努力や沢山の方々にいただいたお力添えを無駄にすることと同義なのではないかと考え続けていたからです。しかしその中で、初めて心の底から、“この方の下で働きたい”と思える場所に出逢いました。業種こそ違いますが、私が福祉を学ぶ中で漠然と抱いていた理想の社会像に直結した理念・考えを掲げられている会社で現在は働いています。

私の夢は続きます。

当初から描いてきた形ではなくなりましたが、本質は何一つとして変わっていません。

皆様にいただいたご支援、優しさは絶対に忘れません。

大学で学んだ理念、「いつも、人から。そして、心から。」

この言葉を胸に、今後は皆様に誇れる人となるよう、一層精進してまいります。